

課題原稿

80年前の太平洋戦争末期、

大阪ではたび重なる大規模な空襲で多くの人が命を落としました。

その悲惨な記憶を伝えようと、

大阪・旭区で空襲をテーマにした伝統芸能の能の作品が上演されました。

上演されたのは「千人塚」(せんになづか)という作品で、

大阪・阿倍野区の能楽師の男性が制作しました。

ストーリーは、空襲によって娘を亡くした父親が大阪を訪れ、

犠牲者をまつた「千人塚」をお参りすると、

娘の霊が菩薩に姿を変えて舞を披露するといふものです。

1945年6月7日、大阪ではアメリカ軍による大規模な空襲で

2800人以上が犠牲になったとされていて、

大阪・旭区の城北(しろきた)公園周辺には、犠牲者をまつた石碑「千人塚」が建立され、
地元の人たちによる慰霊が続けられています。

知人から石碑について聞いた能楽師の男性は、

能を通じて戦争の記憶を次の世代に語り継ぎたいと考え、

空襲から80年となる今月7日、初めて披露しました。

能楽師の男性は、

「今も世界の情勢が悪い状況だと感じていて、

戦争はしてはいけないというメッセージを込めて、

戦後90年、100年とこの作品を披露していきたいです」と話していました。